

### 『森の講話』出前授業 ～九州林産(株)～

九州林産(株)は、九州電力が所有する社有林の保全管理を行っています。森林の持つ環境、社会、経済的側面における適正な管理を目指して、現在FSC森林認証の維持に努めています。

持続可能な森林経営を進める上では、社会とのコミュニケーションが重要であり、その一環として、2011年2月に大分県由布市の由布院小学校の児童クラブで、児童36名を対象に森と地球温暖化との関係などを紹介する「森の講話」出前授業を実施しました。



スギとヒノキの違いを子どもたちに説明している様子

### 子どもたちと一緒に環境問題を考える『環境出前講座』～西日本技術開発(株)～

西日本技術開発(株)では、子どもたちに環境問題に関心を持ってもらおうと、小中学生を対象とした環境出前講座を行っています。講座では「私たちを取り巻く環境」と「生き物たちの多様性」をテーマに、同社の環境部員が写真や図を使って分かりやすく説明を行います。また、実際の調査で使用する計測機器や昆虫類の樹脂標本、ドングリなどの実物を教材として使用しています。

水質測定の実験は子どもたちに大好評でした。受講後、子どもたちから「これから環境を守るために私たちは何をすればいいですか?」といった声が聞かれるなど、次代を担う子どもたちの環境意識は確実に育っています。



昆虫類の樹脂標本などの観察



## 4 環境会計

「九電グループにおける環境会計基準」に基づき、各社で算定した環境活動コストを集約しています。

2009年度比で投資額が約2.5倍となったのは、発電設備の効率向上対策コスト(地球環境保全)の増加が主な要因です。

また、費用額は、風力発電事業会社の新規加入による新エネルギー発電費用(地球環境保全)と発電設備の大気汚染対策費用(地域環境保全)の増加が主な要因です。

単位:百万円

環境活動の分類	主な活動	2009年度		2010年度		2010年度環境活動	
		投資	費用	投資	費用	項目	効果
地球環境保全	地球温暖化防止及びオゾン層保護対策等	1,393.2	55.5	3,508.5	1,215.1	温室効果ガス排出抑制量 <sup>*1</sup>	19.3千トン-CO <sub>2</sub>
地域環境保全	大気汚染・水質汚濁・騒音・振動防止対策等	10.4	1,042.6	0.0	2,223.6	SOx排出低減量 <sup>*2</sup>	8.3千トン
						NOx排出低減量 <sup>*3</sup>	2.0千トン
						法令、条例に基づき適正に管理	
資源循環	産業廃棄物・一般廃棄物の適正処理等	1.7	998.9	21.6	978.1	産業廃棄物リサイクル量	97.2千トン
						産業廃棄物適正処分量	6.4千トン
						古紙リサイクル量	0.9千トン
						一般廃棄物の適正処理	
グリーン調達	グリーン調達で発生した差額コスト	—	3.5	—	17.1	—	—
環境活動の管理	環境教育、EMS運用管理、環境負荷監視・測定、構内緑化等	7.5	303.4	41.0	284.6	環境講演会	集合講演会 46社 47人参加 出前講演会 3社 101人参加
						外部認証取得会社(ISO14001、EA21)	17社
						EMSの第2～4段階への取組会社 <sup>*4</sup>	25社
						環境関連データベース項目数	858項目
環境関連研究	廃棄物有効利用等	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
社会活動	地域の環境活動支援等	0.0	3.3	0.0	3.0	「九州ふるさとの森づくり」植樹活動	30社延べ1,187人参加
						環境月間講演会	40社71人参加
						地域清掃活動	33社実施
環境損傷対応	公害健康被害補償制度による汚染負荷量賦課金	—	210.0	—	156.5	—	—
合計	—	1,412.7	2,617.1	3,571.1	4,878.0		

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。

※1: 新エネルギー等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。

※2: ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※3: ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※4: EA21 認証取得会社を除く。